

(5) バーチャル博物館ルートの形成

近年注目されている、AR（拡張現実）やVR（仮想現実）技術を活用して、現在は廃れてしまった産業革命遺産等を含む景観に、当時の施設や街の賑わいを再現する。具体的には、案内標識にスマートフォンをかざすと、当時状況を再現した映像が画面に表示され、過去の建物や風景が目の前に存在しているように見えるものである。

産業革命遺産等は現在稼働していないものもあることから、このようにARやVRの機能を活用して、視覚・聴覚両面に訴えるガイダンス機能を活用した解説を行うなどして、バーチャル博物館に仕立てることで、その価値や魅力を効果的に伝えることができる。

また、こうしたARやVRのサービスを利用できる地点を増やし、「バーチャル博物館」のルートを形成することによって、ストーリー性を持った観光ルートとしての魅力も高まることが期待される。



図4-5 AR技術のイメージ（かつての夕張の賑わいを再現）

第5章 今後の課題

1 推進体制づくり

(1) 庁内体制

産業革命遺産等の保全と活用に関して、「炭・鉄・港」のストーリーをより広域的で魅力的なものに発展させるためには、グランドデザインを議論のベースとしながら、関係部、関係振興局及び北海道博物館等が教育・文化や産業（石炭、製鉄・製鋼、港）、観光、景観など幅広い視点から意見交換する場を設けることが必要となる。また、振興局エリアを越えた調整が必要であることも踏まえ、本庁（総合政策部人口問題対策局地域政策課を想定）に専掌組織（窓口）を設置することが望まれる。

この組織に期待される役割としては、「炭・鉄・港」ストーリーと連動した総合的・計画的な遺産の保全や地域の語り部の継承に資する人材育成事業など振興局の枠を越えた（予算）事業の構築や、日本遺産の認定に向けて複数市町が関係する歴史文化基本構想を策定する場合などの広域的な調整などが挙げられる。

(2) 推進団体等

グランドデザインの推進に当たっては、学術的な知見に加えて、民間の視点も交えた総合的な検討が必要であることから、大学、企業及びNPO法人などと連携を図るための全道的（広域的）な推進組織を設置し、連携を図っていく必要がある。

また、各地域においても、既に遺産の保全・活用を推進する団体が活動しているものの、会員の高齢化等により廃止を余儀なくされた団体もあることなどから、地域の活動を支える団体の育成を図るとともに、必要に応じて、新たな推進組織の設立についても検討する必要がある。

表5-1 地域の推進団体

空知地域	<ul style="list-style-type: none">● NPO法人炭鉱の記憶推進事業団（岩見沢市） 空知の旧産炭地域の人々や地域を訪れる人々に対して、有形・無形の炭鉱遺産を将来にわたって継承し活用することによって、地域の活性化に寄与● 赤平コミュニティガイドクラブTANtan（赤平市） 赤平の語り部でありガイド役を担い、歴史と炭鉱を活用し、フットパスイベントなども開催
室蘭市	<ul style="list-style-type: none">● 一般社団法人むろらん100年建造物保存会 「旧三菱合資社屋」を保存・活用し、歴史と建物と観光でむろらんを元気に
小樽市	<ul style="list-style-type: none">● NPO法人北海道鉄道文化保存会 北海道の鉄道車両や関係資料を保存、継承するとともに、鉄道遺産を活用して地域を活性化

2 博物館・史料館等の再生と博物館等ネットワークの構築

地域のアーカイブや活動の拠点としての役割を担っている個々の博物館や郷土史料館等を再生することは喫緊の課題となっている。

例えば、夕張市では、現在、世界遺産である尚古集成館（鹿児島市）を管理・運営する株式会社島津興業の助言も得ながら、石炭博物館のリニューアルオープンに向けた準備を進めているが、「炭鉱、製鉄・鉄鋼、鉄道、港」といった産業革命遺産等について、その歴史や産業システムに関心を持ち、知的好奇心を満たすことのできるような映像や動画、工具などの展示の工夫を図り、

博物館のファンを増やすことが重要である。

能登川町立博物館（滋賀県）の事例にあるように、地域住民にリピーターになってもらうことを目指す観点から、住民の最大の関心事である地域のこと（地域の自然、歴史、文化等）を資料化するとともに、地域のことを良く知る地域住民を「地域学芸員」として位置づけ、博物館と一緒に活動してもらうなど、地域住民との協働によって再生を図るという視点も重要となる。

また、個々の博物館・史料館等の価値と魅力をさらに高めるためには、サテライトミュージアム制度の構築等によるネットワーク化が有効であり、産業革命遺産等に関するリレー展示や、北海道博物館における合同企画展示などにより、北海道全体にファンの裾野を広げる必要がある。

3 重要文化財・史跡等の指定や登録有形文化財の登録等の推進

重要文化財の指定や登録有形文化財の登録等は、本来の目的である文化財の保護推進に向けた重要な取組であることに加え、世界遺産や日本遺産などへの登録・認定に向けたベースとなる取組となる。また、遺産に係る学術的な調査や価値評価に関する活動自体が、「地域の宝」を再認識する気運を醸成する重要な機会になるとともに、地域外からの注目が高まることも期待できることから、他の取組と並行して継続的に取り組む必要がある。

4 ガイド（地域の語り部）の育成

産業革命遺産等は、一定の知識を得ることで興味・関心の度合いが飛躍的に高まると言われており、ガイドの存在が非常に重要となる。しかし、ガイドとして重要な役割を果たしている地域の語り部の高齢化が急速に進んでいることから、両親や祖父母が「炭・鉄・港」ストーリーに関わって働く姿を見てきた子ども達や地域おこし協力隊等を対象として、統一した基準で北海道の近代化に関する歴史等を学ぶ機会を設けるなど、地域の語り部を育成する環境について早急に検討、整備する必要がある。

5 北海道全体の気運醸成

北海道 150 年事業との連携を視野に入れながら、「炭・鉄・港」を題材とするフォーラムや遺産の現地視察会等を実施することにより、全道的な気運の醸成に努める必要がある。

また、ふるさと教育の実施により子どもから高齢者まで産業革命遺産等に関する理解の増進を図るとともに、ワークショップやスタディツアーの開催を通じて、地域の人々が「思い入れ価値」を持つ潜在的な「地域の宝」を掘り起こし、地元の気運を盛り上げることも重要である。

一方、北海道における「炭・鉄・港」の産業革命遺産等に関して、九州地域等の「明治日本の産業革命遺産」との比較の中で自分たち遺産の価値を再認識するとともに、特に関係の深い鹿児島との多様な交流も活用することにより、さらなる地元の気運醸成が期待される。

なお、北海道全体の気運醸成にあたっては、道が取り組むとともに、全道的（広域的）な推進組織の役割が重要となることから、本章の 1（2）で述べたように、推進体制づくりも重要な課題となる。

<参考資料>

a 市町村アンケート調査の結果

産業遺産の保全と活用に関する調査要領

1 調査目的

- 北海道の近代化は、空知地域で採掘された「石炭」を小樽の「港」に運ぶために日本で3番目の「鉄道」を敷設したことに始まり、その後、炭鉱会社が室蘭で「鉄鋼」生産を開始し、鉄道がさらに延伸。
- 2015年7月に九州地域等の「明治日本の産業革命遺産～製鉄・製鋼、造船、石炭産業～」が世界遺産に登録され、産業革命遺産に関する関心が高まっている。
- 空知地域や室蘭市、小樽市において、産業遺産を活用して、地域おこしが行われている。一方、「明治日本の産業革命遺産」の構成資産に相当するようなテストプラント的な遺産群が多数存在するが、遺産そのものが劣化するとともに、後世に引き継ぐ担い手や写真や映像などの記録も劣化しつつある。
- 産業遺産を保全しながら活用するための方策について検討を行うため、施設の概要を調べるとともに、市の意向調査を行う。

2 調査方法等

- (1) 調査地域：空知地域（夕張市、岩見沢市、三笠市、美唄市、芦別市）、室蘭市、小樽市
- (2) 調査内容：施設の解説、施設の管理方法、活用方法、今後の活用に関する意向 など
- (3) 調査方法：市や観光協会、民間企業等に調査票を送付し回答を依頼する。
調査表の回答は、メールやFAXによる。

(4) 調査期間：平成26年8月

(5) 調査対象施設

空知地域、室蘭市、小樽市における石炭、鉄鋼、鉄道、港及びその関連する資産のうち、登録有形文化財や国指定重要文化財に指定、または近代化産業遺産（経済産業省）に認定されている施設。

分類	名称	内容	位置付け
炭鉱遺産	夕張炭田関連遺産	三菱大夕張鉄道南大夕張駅跡、保存車両	近代化産業遺産群
		夕張鹿鳴館	近代化産業遺産群 登録有形文化財
		北炭楓鉱発電所	近代化産業遺産群
		旧北炭夕張炭鉱模擬坑道	登録有形文化財
		旧北炭夕張炭鉱天龍坑資材斜坑坑口	登録有形文化財
		旧北炭夕張炭鉱天龍坑人車斜坑坑口	登録有形文化財
		旧北炭夕張炭鉱専用鉄道高松跨線橋	登録有形文化財
		旧北炭夕張炭鉱高松ズリ捨線 (スキップ隧道、ベルト隧道西坑門、拱橋)	登録有形文化財
	北炭幌内炭礦・幾春別炭礦関連遺産（三笠市）	旧国鉄幌内線線路跡	近代化産業遺産群
		三笠鉄道記念物の収蔵物	近代化産業遺産群
		北炭幌内炭鉱変電所	近代化産業遺産群
		北炭幌内炭鉱布引立坑橋跡	近代化産業遺産群
		北炭幾春別炭鉱錦立坑橋	近代化産業遺産群
		北炭幾春別炭鉱錦鉱口	近代化産業遺産群
	三菱美唄炭鉱・三井美唄炭鉱関連遺産（美唄市）	三菱美唄炭鉱堅坑橋	近代化産業遺産群
		三菱美唄炭鉱原炭ポケット	近代化産業遺産群
		三井美唄炭鉱事務所	近代化産業遺産群
鉄道遺産	芦別市の鉄道関連遺産	旧三井芦別鉄道炭山川橋梁	登録有形文化財
	岩見沢市の鉄道関連遺産	北海道炭礦鉄道岩見沢工場 (現：JR北海道岩見沢レールセンター)	近代化産業遺産群
	小樽市総合博物館の関連遺産 アメリカ式鉄道関連遺産	旧手宮機関車庫、危険品庫、貯水槽、転車台 旧手宮線跡地、旧思川鉄橋、北海道鉄道開通起点 総合博物館の保存車両	近代化産業遺産群 国指定重要文化財
	小樽市の鉄道関連遺産	JR小樽駅プラットホーム、JR小樽駅本屋	登録有形文化財

	室蘭市の鉄道関連資産	旧室蘭駅舎	登録有形文化財
鉄鋼	室蘭市の鉄鋼生産関連遺産	旧発電所（日本製鋼所）	近代化産業遺産群
		瑞泉閣（日本製鋼所）	近代化産業遺産群
		エレガ館（旧中島会館） （新日本製鉄(株)室蘭製鉄所）	近代化産業遺産群
		知利別会館（新日本製鉄(株)室蘭製鉄所）	近代化産業遺産群
港	小樽港関連遺産	小樽港（北防波堤）	近代化産業遺産群
		みなと資料館の所蔵物(テストピース)	近代化産業遺産群
		旧日本郵船株式会社小樽支店	国指定重要文化財

網掛けは明治時代の遺産

(6) 回答に当たっての留意事項

施設の状況等により、当該施設が一体的になっているものは適宜1件にまとめて記載・回答することも可能。

施設の解説については、可能な範囲内で記載を依頼。

施設の写真については、別途相談。

調査票整理後、ヒアリングをお願いする場合があります。

■ 市町村等アンケート調査（産業遺産の保全と活用に関する調査） 集計表

分類	名称	内容	明治時代の遺産	登録・指定内容			所有者			管理方法 (複数回答可)					活用状況 (複数回答可)				今後の活用方法 (複数回答可)							課題 (複数回答可)					
				国指定重要文化財	国登録有形文化財	近代化産業遺産	自治体		民間	不明	草刈り除雪等	必要に応じた修繕	何もしていない	その他	教育施設	観光施設	非公開	その他	文化財登録	施設リニューアル	現状維持	日本遺産認定	世界遺産認定	その他(未定等)	知名度不足	魅力的な展示	解説者の高齢化	補足説明する資料の不足	施設老朽化	その他	
							管理 自治体	民間																							
炭鉱	夕張炭田関連遺産(夕張市)	① 三菱大夕張鉄道南大夕張駅跡・保存車両	○		○	○	○			○	○							○										○			
		② 旧北炭鹿の谷倶楽部(夕張鹿鳴館)			○	○													○									○			
		③ 北炭楓鉱発電所			○										○													○			
		④ 旧北炭夕張炭鉱模擬坑道(史蹟 夕張鉱)	○		○	○	○						○						○									○			
		⑤ 旧北炭夕張炭鉱天龍坑坑口(資材斜坑坑口、人車斜坑坑口)	○		○	○	○						○						○										○		
		⑥ 旧北炭夕張炭鉱専用鉄道高松跨線橋			○	○	○						○						○									○			
		⑦ 旧北炭夕張炭鉱高松ズリ捨線、スキップ隧道、ベルト隧道西坑門、拱橋			○	○	○						○						○									○			
	北炭幌内炭鉱・幾春別炭鉱関連遺産(三笠市)	⑧ 旧国鉄幌内線線路跡	○			○													○									○			
		⑨ 三笠鉄道記念館・記念館収蔵物				○	○												○				○					○			
		⑩ 北炭幌内炭鉱変電所				○									○				○										○		
		⑪ 北炭幌内炭鉱布引立坑槽跡				○									○				○								○		○		
		⑫ 北炭幾春別炭鉱錦立坑槽				○									○				○									○	○		
		⑬ 北炭幾春別炭鉱錦坑口				○									○				○									○	○		
三菱美唄炭鉱・三井美唄炭鉱関連遺産(美唄市)	⑭ 三菱美唄炭鉱堅坑(立坑)巻揚槽・原炭ポケット				○	○	○											○						○			○				
	⑮ 三井美唄炭鉱事務所				○									○												○		○			
鉄道	鉄道関連遺産(芦別市)	⑯ 旧三井芦別鉄道炭山川橋梁			○	○	○											○									○				
	鉄道関連遺産(岩見沢市)	⑰ 北海道炭礦鉄道岩見沢工場			○																										
	小樽市総合博物館の関連遺産	⑱ 旧手宮機関車庫、危険品庫、貯水槽、転車台	○	○	○	○	○							○	○			○	○									○			
	アメリカ式鉄道関連遺産(小樽市)	⑲ 旧手宮線跡地、旧思川鉄橋、北海道鉄道開通起点、総合博物館の保存車両	○		○	○	○								○	○			○									○			
	鉄道関連遺産(小樽市)	⑳ JR小樽駅プラットホーム、JR小樽駅本屋			○														○	○								○			
	鉄道関連遺産(室蘭市)	㉑ 旧室蘭駅舎	○		○	○	○												○								○				
鉄鋼	鉄鋼生産関連遺産(室蘭市)	㉒ 旧発電所(日本製鋼所)	○		○													○									○				
		㉓ 瑞泉閣(日本製鋼所)	○		○													○										○			
		㉔ エレガ館(旧日本製鐵中島会館)			○																						○				
		㉕ 知利別会館			○														○									○			
港	小樽港関連遺産(小樽市)	㉖ 小樽港(北防波堤)、みなと資料館の所蔵物(テストピース)	○		○	○	○																				○	○			
		㉗ 旧日本郵船株式会社小樽支店	○	○	○	○													○	○							○				
			11	2	8	19	13	(10)	(3)	10	4	5	9	2	1	11	10	8	7	4	1	20	4	0	4	2	1	3	1	14	12

産業遺産の保存と活用に関する調査

整理番号	①	名称	三菱大夕張鉄道南大夕張駅跡・保存車両		分類	炭鉱関連施設
写 真		所在地	夕張市南部東町		建築年等	1906（明治39）年
		構造			設計者	
		見学可否	外観のみ（敷地内は要許可）		施工者	
		文化財等の登録・指定内容	2007（平成19）年近代化産業遺産群			
		アクセス方法	夕鉄バス・南部停留所から徒歩5分			
解 説	<p>・三菱大夕張炭鉱・南大夕張炭鉱の石炭輸送線であった三菱大夕張鉄道の客車、ラッセル車、保線車輛等が旧南大夕張駅構内に残されています。</p> <p>・三菱大夕張鉄道は1911（明治44）年に専用鉄道として開通しましたが、1939（昭和14）年に地方鉄道に改組されました。1987（昭和62）年の廃止時には、北海道唯一の私鉄（札幌、函館の公営交通を除きます）でした。</p> <p>・冬期間には石炭ストーブが積み込まれ、住民たちに親しまれた鉄道でした。</p> <p>・現在、次の車輛が残されています。</p> <p>（1）客車スハニ6号（1913（大正2）年製作）：3軸ボギー客車（2）オハ1（1906（明治39）年製作）：床下にトラス棒を持つ（3）ナハフ1：唯一の三菱自社発注車（4）セキ1（1911（明治44）年製作）・セキ2：石炭運搬車（5）保線車輛</p> <p>・近年、荒廃が相当進んでいましたが、地元市民などが中心となった「夕張・シューパロ塾」や「三菱大夕張鉄道保存会」（市民組織）が修復・整備活動を始めています。夕張市の協力を得ながら、地域の遺産の学習や文化祭の開催など活発に取り組んでいます。</p>					
施設の現存状況	有（ ） 無（解体年（ ））					
所 有 者	夕張市		管 理 者	夕張市		
施設の管理方法 （いずれかに○）	<input checked="" type="radio"/> 1 市町村自ら管理 <input type="radio"/> 2 市町村から民間会社に指定管理・委託により管理 <input type="radio"/> 3 所有者が管理 <input type="radio"/> 4 その他 （ ）		施設の管理状況 （複数回答可）	<input type="radio"/> 1 市町村職員が行う草刈り・除雪等 <input checked="" type="radio"/> 2 屋根の防水工事など、必要に応じて修繕 <input type="radio"/> 3 特に何もしていない <input checked="" type="radio"/> 4 その他 （冬季の除雪等の実施）		
施設の活用方法 （複数回答可）	<input type="radio"/> 1 教育施設として活用 <input type="radio"/> 2 観光施設として活用 <input type="radio"/> 3 一般開放していない <input checked="" type="radio"/> 4 その他 （教育施設・観光施設のいずれにも定めずに公開）		自由記載：			
施設の今後の活用方法について （複数回答可）	<input type="radio"/> 1 文化財等へ登録・指定（国・市）※注1 <input checked="" type="radio"/> 2 施設のリニューアル <input type="radio"/> 3 現状維持（維持補修を含む） <input type="radio"/> 4 日本遺産の認定 <input type="radio"/> 5 世界遺産登録 <input type="radio"/> 6 解体撤去 <input type="radio"/> 7 未定 <input type="radio"/> 8 その他（ ）		自由記載：			
他地域との連携した取組について 「炭・鉄・港」など （いずれかに○）	<input type="radio"/> 1 すでに他地域と連携している（具体的な内容：（ ）） <input checked="" type="radio"/> 2 検討中 <input type="radio"/> 3 現時点では連携実施していない <input type="radio"/> 4 その他（具体的な内容：（ ））					
施設を活用する上での課題 （複数回答可）	<input type="radio"/> 1 知名度が不足している <input type="radio"/> 2 魅力的な展示方法がわからない <input type="radio"/> 3 施設を解説できる人材が高齢化し、不足している <input type="radio"/> 4 施設を補足説明する写真や資料等がない <input checked="" type="radio"/> 5 施設が老朽化しており、修繕に多額の費用がかかる <input type="radio"/> 6 その他（具体的な内容：（ ））					
施設の画像の有無 （該当するものに○）	静止画	有： <input checked="" type="radio"/> 写真 <input checked="" type="radio"/> ネガフィルム <input checked="" type="radio"/> デジタル写真 <input type="radio"/> デジタルデータ その他（ ）				無
	動画	有： <input type="radio"/> 8ミリフィルム <input type="radio"/> ビデオ <input type="radio"/> DVD その他（ ）				無
産業遺産の保全と活用について	*産業遺産の保全と活用についての質問や意見等があれば、記載してください。					

注1 「文化財等の登録・指定等」には景観法に基づく景観重要建造物の指定や、各市独自の保存制度も含む。